

新刊紹介

北海道 安全な登山

日下 哉 : 著

北海道新聞社

2011 年 8 月発行, 1890 円

A5 判 183 頁

ISBN : 9784-89453-609-8



2009 年 7 月, 北海道の屋根と呼ばれる大雪山の南部に位置するトムラウシ山で, 引率していたガイドを含む 9 名もの登山者が低体温症で死亡するという痛ましい事故が発生した。真夏といえどもひとたび天候が悪化すると生死を左右するほどの悪条件となる, それが北海道の山岳の特徴である。本書は, 高校山岳部などでの長年の指導経験を有する著者が, ご自身の日頃の経験と収集された資料をもとに書き起こされ, この大量遭難死事故のような惨禍を再び招かぬためにとの願いを込めて, ようやく出版にこぎつけたものである。登山ガイドや安全啓蒙書に類する本が少なくない山岳書のジャンルの中で, これまで, 北海道の登山環境についてまとまって詳述されているものは皆無といっても良い状態であった。本著の登場により, ようやくその穴が埋められることとなった。

本著の特徴は, 登山者として北海道の山岳に向き合うのに必要な基礎知識が, 平易な言葉で解説されていることにある。気象・雪氷・生態・自然地理の各分野における科学的な根拠に基づいて記述されているため, 読みやすさと同時に, 根本に立ち返って自然と向き合うことの大切さも伝えてくれている。

第一章では北海道の山と気象について解説されている。シベリア気団とオホーツク海気団の影響を受ける北海道独自の気象要素にはじまり, 積雪・残雪期が長いことや北方植生の垂直分布までに解説が及んでいる。第二章では北海道の動植物についてで, ヒグマはもちろんのこと, キタキツネと寄生虫, 毒をもつ生物への注意などが解説されている。第三章では, 登山道・山小屋・トイレの整備状況などの登山環境やルートファインディ

ングの難易について取り上げられている。第四章と第五章, および一つとんで第七章では, 前章までに解説された北海道の山の自然に対して, どのような装備で向かうべきか, どのように行動を計画し実践すべきか, そして緊急時にはどう対応すべきか, ということについて解説されている。ここは一般的な登山指南書とそれほどかわりはないものの, 著者自身の経験に基づいた装備表が披露されているのは参考になるし, 北海道特有の気象条件に対応した気象データの読み方についての解説は他書にはみられない本著独自の貴重な解説であろう。第六章は, 道内にある百名山と札幌近郊の山々を例に, 地形図と著者書き起こしのルート断面図を用いて, 無積雪期を中心に登山ルートが注意すべきポイントとともに解説されている。国土地理院の地形図をそのまま引用して掲載されているのには, 未開的要素がまだまだ多くの残されている北海道の山ではちゃんと地図を携行して読図してくださいよ, という著者のメッセージが込められている。最後の第八章では, 北海道の山を楽しむためのヒントが提供されている。北の山ならではの雪との親しみ方, 山菜やキノコ, 溪流魚などの自然の恵み, そして可憐な高山植物や温泉での癒し。このような話題は安全とは離れるとは言え, 少しでも北海道の山の魅力を伝えたい, という著者の思いが伝わってくる章でもある。最後に, 著者も述べているように, 冬山こそが北海道の山の典型であり, 地元が誇る登山文化が育まれてきたホームグラウンドでもあることは, 紹介者の私自身も同意するところである。残念ながら, 初学者を対象とする本著の枠からははずれるので本格的には取り上げられていないものの, 北海道

の山の魅力にとりつかれた方々には、いずれは冬山の世界も体験していただきたいと思う。

本書には、ここ数年道外からやってくる登山者の行動をみていて「その内に大惨事が起こる」という想いを抱くようになった著者の「北海道の山は本州とは違う」という切実な訴えが込められている。すでに登山の経験を積んでいても、北海道

は初めて、という方には強くお勧めできる。そして道内の登山者にも、地元の山の自然を再認識してもらうために、本書を手にとられることをお勧めしたい。

(北海道大学大学院地球環境科学研究院 澤柿教伸)

(2011 年 10 月 18 日受付)

アイスコア

地球環境のタイムカプセル

藤井理行, 本山秀明 編著

成山堂書店

2011 年 3 月 28 日発行, 236 頁, 2400 円 (税別)

ISBN978-4-425-57011-9



極地研ライブラリーの創刊号として「アイスコアー地球環境のタイムカプセル」が発行された。極地研ライブラリーは、理解がすすんだ極地の自然について、その観測や研究の成果を第一線の研究者が科学的に分かりやすく解説するとともに、極地での調査や活動、さらにはその歴史を紹介するシリーズ本として刊行されている。本書の見開きには「本書は、気鋭の研究者達が、日本のアイスコア研究の成果を分かりやすくまとめた最初の書物である」と書かれてある。

本書は 1. アイスコアから過去の気候・環境シグナルを抽出する方法, 2. 日本の北極および南極アイスコア研究から明らかとなった気候・環境変動, 3. 最近のアイスコア研究の新分野の 3 つの章から構成されている。各章ではそれぞれの分野で国際的に活躍している専門家たちが解説しているので、最前線の情報が分かる。近年のアイスコア研究の隆盛により、各分野での研究者の増加と進展は著しく、またアイスコア研究の新分野も発展してきており、全貌を把握することは容易では無くなってきている。その意味で、本書は我々専門家にも役に立つ内容である。

第 1 章「極地の氷に刻まれた古気候古環境シグナルの解説」では、氷床コア掘削の意義とドーム

ふじ氷床深層コア掘削、コア中の気候・環境復元要素、コアの年代決定方法、過去の気温復元の方法、エアロゾルがもたらす情報、火山灰分析による火山活動の復元、コア中のガス分析による過去の大気組成の復元について述べられている。ドームふじ氷床深層コア掘削では編者が係った第二期掘削について詳細に記述されている。アイスコアによる気候環境研究ではコアの年代決定が重要であるが、この章の中では、日本のドームふじコア研究の優れた成果の一つである酸素・窒素比率による年代決定法が紹介されている。また過去の気温復元はアイスコアの古気候情報のうちで最重要情報であるが、どうやって気温復元をするのか、またその確からしさはどの程度かについて詳しく説明されており、興味深い。各節はそれぞれの分野の最前線の気鋭の研究者によって書かれているので、少し専門的で一般読者には分かり難い部分もある。大気組成の復元の節は、はじめにコアから気体をどのように抽出するかや、種々の方法の比較が書かれてあり、読者にとって分かりやすく、また興味深い。

第 2 章「アイスコアから明らかになってきた地球環境」では、北極圏と南極の浅層コアから明らかになった過去 300 年の気候環境変動、最終氷期